

2019年 入塾説明会：原稿

初めまして、考学館各務原校責任者の水野と申します。
当塾の入塾説明に興味を持っていただき、ありがとうございます。

まずは、自己紹介をさせていただきます。

私は名古屋出身ですが、公立高校の受験に失敗し、進学した先の私立高校も退学。1年程ニート生活をしている中、高校野球で活躍する小中学校時代の友人の姿をテレビでたまたま見たのがきっかけで、這い上がることを決意しました。

新聞配達で予備校の学費を捻出し、大検(現高卒認定)を取得、無事、第一志望の大学に合格しました。

大学時代は法律の勉強そっちのけで、高校中退の黒歴史を取り返すかのように、「青春を謳歌」しました。トライアスロン部に入部し、生涯の友人が数多くできました。この過程で私が学んだことは2つ。

まず1つ目に「人間は外見が重要である」ということ。高校中退後、いざアルバイトをしようと思っても、その経歴と立ち居振る舞いだけで、運よく雇っていただいた新聞店(これも同級生のお父様の経営する店でした)以外は全てはじかれました。人間は中身が大切であることは間違いありません。しかし、その「中身をみてもらえる状態」までもっていかねばいけません。

そして2つ目に「勉強を通しての人格形成」は可能だということ。たまたま私が勉強くらいしか頑張ることがありませんでしたので、それを生徒さんがたに伝えるためにこの職に携わっています。もし、私が野球で人生を変えることができたなら野球のコーチになっていたでしょうし、サッカーであれば、サッカーのコーチになっていたでしょう。

では当塾の開校から、今日に至るまでの道のりについて振り返ってまいります。

私は、2010年の3月に前職を退職し、同業他社で働くか、自分で開校するか、悩みに悩みました。その間、様々な塾さんから、熱心にお誘いを受けました。そんな折、元教え子のお母様から、「下の子の家庭教師をして欲しい」と依頼を受け、そのままの流れで「塾を開いて下さい」との一部の保護者の方々からの後押しもあり、開校を決意しました。ただ、場所もお金もありませんでしたので、公園の中の集会所を自治会長のご厚意でお借りすることができました。2011年1月24日(月)、7組の皆様にお集まりいただいたのがスタートでした。そして今日に至ります。

当塾の理念

①「嘘をつかず、信頼を得る。信頼を可視化したものが塾の月謝である」ということ。

当塾は、入塾の説明をした後、無料体験は最低1か月間を設けています。その間に、当塾の方針に従っていただけるか、そして、相互に信頼関係を結べるかを判断します。信頼関係を結べそうにない方から、お月謝をいただくのは失礼だからです。

②頑張る生徒・やる気のある生徒を「平等に最良にする」

塾の講師は「御用聞き」ではありませんが、頑張る生徒には過剰なまでのサービスを提供します。それがたとえ、どんな不純な動機であっても構いません。

③「同じ校舎で同じ講師が同じ生徒を最長8年間指導する真の小中高一貫の進学塾」

私は生徒に夢を語るとか、勉強の楽しさを教えることはできません。私が生徒に伝えたいのは「こんな大人になるなよ」ということと「大人の世界も楽しいよ」ということです。そして、それは勉強という一つのツールを通して生徒に伝えることは可能であるということです。

インターネットの出現によって、大半のことが今日、ガラス張りになりました。そして、情報も手に入り、オンラインの予備校などもあります。娯楽も教育もスマホ一台で事足りる時代において、ライブでしかできない事と言えば「体験」です。当塾でしかできないことを挙げさせていただきます。

メディアに出演されているような、著名な予備校の先生は別として、塾というのは極めて特殊な空間です。そして、塾は内部のことが分かりにくいのも現状です。

当塾の塾生には、当塾でしかできない「体験」をして欲しいと思います。基本料金さえ払えば動画は見放題、テレビも電気代さえ払えば見放題。少なくともお客様が塾に来ている時間帯はそれ以上のものを提供できなければ、通塾する意味がありません。そして、いらぬお世話ですが、勉強内容に関しては全て学校と塾に丸投げしていただき、保護者様にもご自身の時間を大切にさせていただきたく思います。

授業も含めて当塾が特化していること

①情報は公開する

個人情報以外で隠さなければいけない情報は有していません。月謝や諸経費、自習室での様子、生徒の通塾年数等も個人情報以外は全て公開しています。入塾時に卒塾までにかかる料金が説明できないことなど、他の業界ではありえません。

②嘘はつかない

できない子の気持ちが分かるという人がいます。なぜ自分ができなかったのに勉強法が享受できるのでしょうか?大切なのはここから先で、その結果今あなたはどうか?ということ。私はよく体験談を生徒に話します。高校を中退した、ニート歴3回...これを自慢しているわけではありません。

中卒なのになぜ講師をすることができるのか?なぜ外国語学部や英文科卒でもないのに高校生に英語の指導ができるのか?自分がリスニングの試験など受けた事もないのになぜ指導できるのか?それは、嘘をつかずにできうる限りの自己犠牲を払ってきたからだと思います。それを、ライブの授業という自己表現ができる空間の中で、お客様である生徒に伝えたいだけなのです。

進路指導もそうです。あくまでも高校入学後の生徒さんから逆算して指導します。「〇〇高校はあなたに合っている」などと、無責任なことは言いません。私ごときが、生徒の人生をしょって立てる程偉くないからです。自分が高校に通ってもいないのに、それは無責任すぎます。あなたのためを思って...などと言うよりも、生徒が広い視点を持って世界を見ることができるようになる手助けをすることこそ、大人の仕事です。

永きに渡る確固たる信頼関係があればこそその当塾の実績です。大学合格した生徒の平均通塾年数は6年です。「その高校からではなかなか合格できないような大学」にも多数の合格者を輩出しています。

理由の一つとして、変に期待を持たせて、あとでこじつけるようなアドバイスをしていないからです。数学のセンスの壁にぶつかったら、すぐ日本史に切り替える。高2の夏くらいまでに、それができている生徒は難関私立大に合格できます。私大文系が「楽」というのもとんでもない誤りです。スタート地点によりませんが、英語は目に見えて偏差値が上がり始めるまでに1000時間の学習は必要です。

壁にぶつかることもなく、質問対応のみや自己処理で理系科目の得点がとれる生徒は理系の大学進学も臨めると思います。

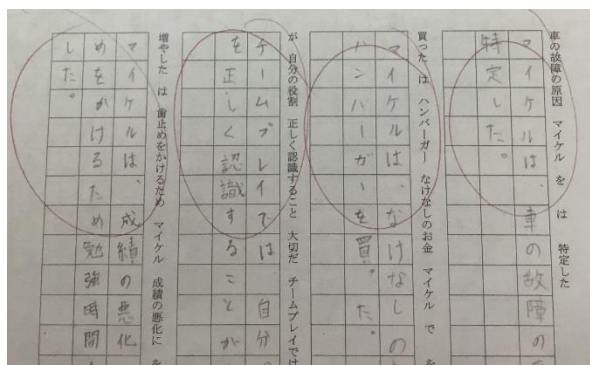
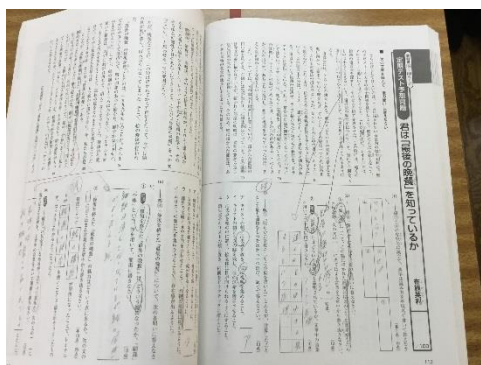
③授業について

一般的な集団塾と変わりません。導入→例題→演習→宿題の手順です。ただし、グレーゾーンは作りません。

小学生：国語(読み取り・作文)

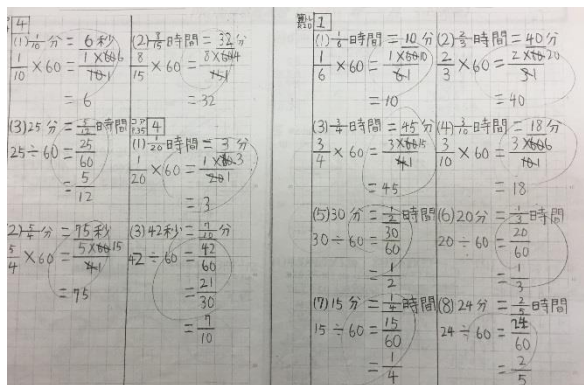
作文の意図としては、話す時に助詞がないなどの弊害を防ぐためです。話し言葉と書き言葉の違いも分かります。また、自分で書いた文を音読することによって、どこがおかしいのかがすぐに分かります。

読み取りは、初見の文章を正確に読めるようにすることが目的です。「読書量」と「答案作成能力」は別物です。「次の文を読んで後の問いに答えよ」が全てのヒントです。文章中にないようなことが、答えになることなどないのです。感情移入などせずに、極めて客観的に読み進めていくことが必要です。必要なのは「客観性」です。それが、「リンクを貼る」という作業です。(左下写真)



小学生：算数

公文やそろばん経験者の方は、良い点は残しつつも、塾として丁寧に、途中式を省かず「誰に見せても恥ずかしくないノート」をつくるようにします。高校生になって、理数系が得意科目(全国模試で偏差値 65~70 くらい)になれば、自己流でも構いません。



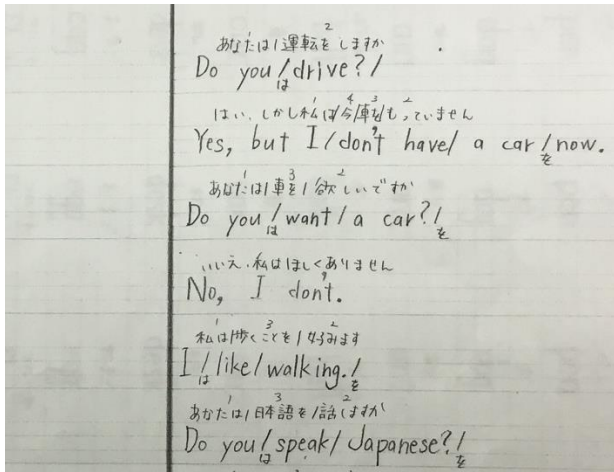
小学生：英語

英語に関しては、小中高まとめてお話しします。経験則ですが、中2の段階でbe動詞と一般動詞の区別がつかない、などの症状が出始めると、もう取り返せません。小学校の英語必須化に伴い、次から次へと危機感を煽る宣伝文句が巷にあふれています。まずは、英語学習の定義です。「英語」となると、とたんにハードルが低くなるように思います。お手軽な「お稽古事」感覚は否めません。「第二言語習得理論」という言葉をご存知でしょうか。10歳を過ぎると、人間の頭は「論理的思考力」が勝ります。もう体で覚えることは無理なの

です。これはもう証明されています。ですから、いくら英語の需要が高まっているとはいえ、「これから生徒が歩むのと同じ道のりを歩んだ経験のある人」でなければ正しい指導はできません。「頭で理解する」という利点を活かさない手はないのです。

(例)This is a pen. / This pen is new.の違いがしっかりと説明できますか?

英語に「は」はないということ。そして、チャンク分けをさせ、意味の区切りを理解します。下が小学生の英語のノートです。



私自信もまだ「いち学習者」ですが、色々な方から指南をいただきます。その際に注意しているのが、「バイリンガルでない」「外国語学部や英文科卒でない」「超難関大卒でない」方々の意見が一番参考になります。「私は2ヶ月で英検1級に受かりました」という方の学歴を見たら、東大や慶応卒です。そもそも、東大の英語を解けるだけの頭を持っていて、東大のリスニングを解ける、という前提条件をとばしてしまうと誤ってしまいます。やはり、最も参考になるのは、「大人になってから英語を苦勞して会得した方々の生の経験」なのです。私自身も、週に1回は、英会話教室でスピーキングとライティングはネイティブの先生からしっかりと指導を受けています。以下が、やっていいことと好ましくないことの例です。

×英語のシャワー ×洋画 ×ネイティブ重視の英会話 ○政治家のスピーチは例外的にOK

- ・母語 聴く→読む：しゃべる→書く
- ・第二言語 聴く←読む：しゃべる←書く…英語はこの過程で覚えなければなりません。

当塾で小中高生に行っている「口頭英作文」をご紹介します。これは、日本語を言われた瞬間に、答えをすばやく返す、「クイック&レスポンス」という訓練法です。英語の「運用能力」を高めるには効果的です。例えば、「個人の意思は尊重しなければいけない」と言われたら、素早く「We must respect the will of the individual.」と答えます。この際、発音は多少雑でも構いません。

学年が上がると実際に音源を用いて、「シャドーイング(原稿を見ずに、数語遅れでそっくり真似をする)」や「オーバーラッピング(完全に自分の音をかぶせる)」を指導します。今現在、中3生の成績上位者は、英語の音源は、1.5倍速で実践しています。手順としては、まず自分で音声聞いて音チェックします。どの音とどの音が連結・合体・消失を起こしているのかをチェックするのです。音読の最大の効果は英文を頭から訳せることです。そしてもう一つ、「自分で言えないようなものが聞けるはずがない」からです。「サンキュー」「ナ

イストゥミーチュール」が言い例です。そして、シャドーイング・オーバーラッピングをし、大体聞き取れるようになるまで繰り返します。そっくりそのまま真似できれば、口の動きもそうなります。それでもまだ完成ではありません。一語一語の単語が聞き取れても、「全体像」が分からなければ意味がありません。ではどうすればいいのか?例えば、「3+5」を計算しろと言われて、問題を忘れる人はいません。これは、一時的に頭の中に「3+5」が保持されるからなのです。だからすぐ計算できる。ところが、単語一語一語を訳していると、頭の中の容量がオーバーフローしてしまうのです。最終形態は、「頭の中で映像化」です。その会話の場面をイメージできるか、ということです。これをできるようにならろうと思ったら、**コミュニケーション能力も必要**ですし、意味をとるためには、人の心の機微が分からなければいけません。例えば、「私の彼氏、ちょ～ヤバいんだけど」と言われたら、二通りの解釈ができます。英語もそうです。「信じられないわ」という時、「I can't believe it.」と言います。これも二通りの解釈が可能です。そして、語学学習は、研ぎ澄まされた**集中力**を要します。全てが先ほどの国語・算数と繋がるのです。そして、発音の綺麗さよりも流暢さの方が大切です。綺麗さはそこまでこだわらなくても文脈で判断できますし、普通分かります。繰り返しになりますが、10歳を超えたら長期留学でもしない限り完璧な発音は難しいと思います。

(例)I eat rice. / I eat lice.→「lice:しらみ」を食べる人は普通いません。

だからといって、堅苦しいことばかりやっているわけではありません。先日は、小学生に「楽器の前になぜtheをつけるか」を説明しました。そこから話を膨らませることができるのが、本当に力量のある講師です。

中学生までにしっかりと習慣をつけておけば、高校に入っても大きくこけません。また、行きたい大学を親にプレゼンすることや、自ら進んで調べて県外にオープンキャンパスに行くことなども、勉強を通じての成長だと思えます。

★中学生の授業

内容が分かりやすいのは当たり前ですが、マニュアル通りでは臨機応変に対応できません。

当塾では、積極的に質問に来ることを推奨します。親や学校の先生以外の**第三者の大人とコミュニケーションをとることは、学力に直結します**。往々にして、受験対策の作文が不得手な生徒は、コミュニケーション能力が低いです。感受性豊かな生徒は点数において大幅な点数の下落はしません。また、質問をするのを同じ空間で聞いている人にも効果があるというデータがあるそうです。

そしてもう一つ、塾としてのメリットもあります。それは、年度による、生徒の出来、不出来を見極めることができるのです。例えば、同じ400点でも年によって意味合いが異なります。400点の生徒がある問題を質問に持ってきたとします。ということは、その点数以下の生徒は全員がその問題があやふやということになるのです。**すぐにその場で即席の授業を提供します**。これがライブの醍醐味です。

面倒見主義とは?面倒見主義を掲げるところは多いですが、その定義はどこからでしょう。テスト前に自習室を開放して放置しておくことはありません。当塾はいい加減な対応はしません。生徒に解かせたプリントは全て講師が○つけをし、蛍光ペンでマーカーを入れてやり直しをさせます。

1 (鎌倉幕府と執権政治) 次の年表を見て、あとの問いに答えなさい。

年代	できごと
1051	前九年合戦
1083	後三年合戦
1086	白河上皇の(1)が始まる
1156	保元の乱
1159	平治の乱
1167	平家盛が(2)になる
(3)	頼朝で平氏がはろびる
1192	源頼朝が(6)に任命される
(7)	承久の乱
1232	(8)の制定

(1) 年表中の①～⑧にあてはまる語句や数字を書きなさい。
 (2) Aの戦乱の後で平泉を拠点に勢力を持ったのは何氏ですか。
 (3) 下線部③の人物が開いた鎌倉幕府について、次の問いに答えなさい。
 ① 右の資料は鎌倉時代に開かれた、鎌倉幕府の仕組みを表したものである。資料中のあ～うにあてはまる語句を書きなさい。
 ② 将軍に忠誠をちかつかつた武士を何と呼びますか。
 ③ ②に対し、将軍が領地を保護したり、領地を新しくあたえたりすることを何といいますか。

1 次の

① 院政
 ② 太政大臣
 ③ 1185
 ④ 平家
 ⑤ 地頭
 ⑥ 征夷大将軍
 ⑦ 1192
 ⑧ 御成敗式目

(1) 源氏
 (2) 氏
 (3) い 侍
 (4) う 評定衆
 (5) 侍

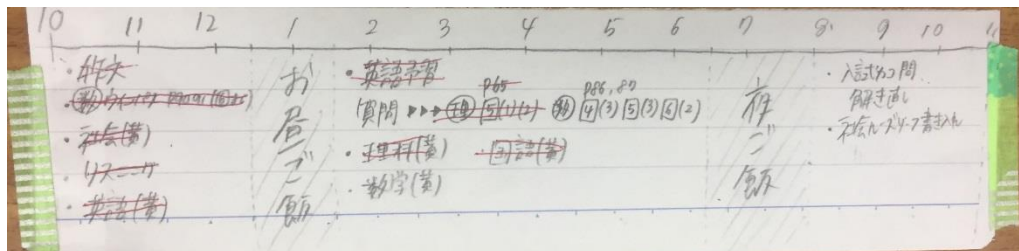
これは室町幕府

執権

そして、テスト後のフィードバックも大切です。「時間がなくて解けませんでした」という子がいますが、「次からは時間内に解けるようにしようね」と言ったところで、具体性がまるでありません。「問題数はそうでもないのに、手も足も出なかった難問だった」か「じっくり考えれば解けた」のか、大抵は後者です。ということは、タイムマネジメントの力をつければいいのです。それを可能にするのが塾の自習室です。

④自習

- ・自習のようす、やり方は、タイムマネジメントの力をつけるため、やったことを「可視化」します。



- ・同じ教室に小中高がいることは最大のメリット→小中高生が一同に介する自習室の雰囲気は「非日常空間」と呼ぶにふさわしいものです。
- ・あの先輩みたいになりたい、という生徒が複数います。当塾のお手本は私ではなく、卒業を控えた高3生たちなのです。

⑤特別授業の実施

学校で絶対に教えてくれないことや、他塾では聞けない話をしに、友人に来てもらっています。

2017年は、9月に中3の社会の授業に、大学時代のトライアスロン部の同期の男に来てもらいました。彼は、全国屈指の学習塾激戦区である愛知県三河地区の大手塾で、長年、トップ講師として働いてきた男です。300人の保護者の前で授業したこともあるほどの、その会社のエースでした。ただ、実家を継ぐことになり、今は一宮在住で自由がききますので、開催に至りました。残念ながら、私のはるか上を行っています。唯一負けを認めた講師です。

10月には、自分で税理士事務所を開業している女性税理士に来てもらいました。学校では聞けない話をテンポよく話してくれました。特に女子にインスパイアされた生徒が多く、ブログ・ツイッター・インスタまで

チェックする生徒も出た程の人気ぶりでした。

⑥厳しさという言葉の意味が生む拡大解釈

拡大解釈をするのは、生徒に限ったことではありません。

当塾のことを知らない方は、「あそこは**厳しい**」「**やらされる塾**」「先生一人で大丈夫か」と声が挙がります。当塾は、何もやましいことはしていませんし、実績があります。そして、一人ではありません。株式会社の形態をとっているのは、もしもの時のためです。**厳しいだけの塾なら、生徒が7年も8年も通塾するはずがありません**。しっかり取り組んでいるお子様は、必ず「**面白い**」といます。「**面白い話**」も授業の流れの中でプログラミングされているからです。なかなか普通ではできない経験もしてきておりますし、通塾歴の長い生徒であればあるほど良く分かってきているものと信じます。

希望する方は、高校入学と同時に高等部へ継続となります。**高校生からの新規入塾は受け付けておりません**。理由は以下に記します。

【高校からの入塾をお断りする理由】生徒を中3までしか指導していない場合は、高校に受かった時点で卒業です。高校にさえ合格させてしまえば、おしまいなのです。また、その後の高校生活がどうであれ、生徒たちの中では塾は、「いい思い出」として残ります。当然、いい評判が広まる率も高くなります。

ところが、継続して高校生を教えることにより、思わぬ弊害が生まれます。「高校受験は成功したのに、大学受験は思い通りにいかなかった、中学生の時よりも面倒見が悪くなった、あそこは中学生までの塾だ」となるのです。人間は最後の記憶が頭に残りますから、高校合格時点で「いい塾」だったのが、「悪い塾」としての記憶にすり替わります。ただ、**難易度の高い高校に入学したからといって、自動的に難関大学に合格できるというのは、大間違いです。この考え方自体を根本から変えてやろう**というのが当塾です。

当塾のHPの体験記も生徒の変貌も、全て、入塾時期や通塾年数、**どういう形で生徒が変化したかを明確に記載しています**。冷静に考えていただければ分かるのですが、**高校はスタートラインが皆同じです。そうそう簡単に思うような成績は塾通いを続けても取れません**。そのことをご理解いただければいけません。また、手遅れになってから問い合わせをいただいても、お金をいただくのは申し訳ないですし、そういったお電話を受けると悲しくなるのと同時に、もっと早く来てほしかった、という想いを抱かざるを得ません。

ここまでお話を聞いていただきましたが、いかがでしたでしょうか。少しでも私の熱が伝われば幸いです。地域の教育のレベルを真剣に上げたいと思っている、同じ規模の塾の先生方は多くいると思います。極端な話、しっかりした塾であれば、当塾に入塾しなくてもいいと思っています。真剣に校舎運営をしている先生もきっと多くいるはずです。消費者の皆様にもそれを見極めていただく眼力を養っていただくための手助けになれば幸いです。

入塾説明をご希望の方には、「確認作業」のために当塾に足を運んでいただければ、と思います。

旅行がいい例です。すでにどういうところが分かって我々は旅行に行きます。塾もそれと同じでいいと思います。福袋のような「隠す要素」を出す必要はないのです。

私には残念ながら、東大や京大を卒業された方のような最高ランクの学力は有しておりません。ですが、それでもお客様が当塾のことを信じてくれて、学歴や学力で私を踏み台にしてどんどん将来の選択肢を増やしてくれることが何よりも嬉しいのです。